

オススメコーナー



レイプリーの国

有吉浩一著
新潮文庫（二〇〇九年）

読解きはテイラーのあとで

東川篤哉 著

小学館文庫（二〇一二年）

事件（殺人）が起きて犯人捜して推理して解いてではなく、（もちろんそれもあるけれど）ストーリーが楽しい！とにかく一度読めば笑えます※シリーズ三巻まで所蔵。ノッフルパー版も三巻まで所蔵しています。

Taku



夏と花火と私の死体

乙一著

集英社文庫（二〇〇〇年）

この小説の料と言えば、その視点だろう。この小説の主人公は、夏休み一人の小説の主人公にあっけなく殺されてしまう。つまり、ホラー小説では珍しい、死体目録の語りである。主人公を殺した少女とその兄に温かく聴かれ、冷たく接される主人公を、愛を欲み、兄妹の主人公の身勝手動きには緊張感を共にする作品。ほんやりとした暑さの中で読むには、ちょうど良いのではなないだろうか。



仮面の告白

三島由紀夫 著

新潮文庫（二〇〇三年）

この作品に、あらすじの紹介は不要だろう。ただ、一人の男が成長する過程で、「みんなと違う自分」に酔い続けるだけの話だから、男に魅かれる自分、女に対して大衆と異なる姿勢を保つ自分、ひたすら自分と対話し続けるのである。

誰もが「みんなと違う自分」という物語を心に描いたことがあるのではないかと、だから読み始めはすんなり進むだろう。しかし読み切ると、さうさうな人だろと作者を案じるに違いない。作者の三島が劇的な最期を遂げたことは、未読の人にも周知ではないだろうか。本作と作者自身の結びつきに思いを馳せるのも一興だろう。

昭和と共に生き、日本文学史にその名を刻んだ男、三島由紀夫の代表作である本作は、彼の自伝的小説と呼ばれることも少なくない。彼は戦中から青春を過ごし、作中にも戦争や兵士に関する描写は多い。戦後70年の今、戦争を考える二つの眼とて本作と向き合うのも悪くないだろう。



黒冷水

羽田圭介

河出文庫（二〇〇三年）

兄が自室を空にするのに、弟は部屋へと怒鳴り込む。机の引き出し、サイドック、収納櫃は溢るほどに兄の部屋を漁っていく。兄がその中に買った時、ふたりは社長のバツルが始まる。どちらが相手の妻がかくのか、何が本当の秘密で、何がトラップか。相手手を徹底的に解めつける方法を模索する隣せめぎ合いに、逃げ寄りてきたある人物は、徐々に兄弟を敵にする。心の暗部を読みとるふたりには、実はほとんどの会話がない。第一五回刊行作家、羽田圭介若干回巻の衝撃的デビュー作。

「この本は、『三匹のあつちん』や『図書館戦争』など有名な東川篤哉さんの著書です。ストーリーはもちろんです。登場人物もよいのですが、さらに僕がよいと思ったのが、登場人物のやりとりで、ドラマチックだったたり、微妙にかみ合った感じがあったりして、読んでいてあきませんでした。また、『この本を読み終わる』というシリーズとして、『海の底』『道の街』もあるのが読んで読むといいでしょう。（順番はどの本からでも大丈夫です）ぜひ読んでみて下さい。」



空の中

有川浩一著
株式会社KADOKAWA
角川文庫（二〇〇八年）



魔女のスープ

阿川佐和子 著

マガジンハウス（二〇一〇年）

この本は、『三匹のあつちん』や『図書館戦争』など有名な東川篤哉さんの著書です。ストーリーはもちろんです。登場人物もよいのですが、さらに僕がよいと思ったのが、登場人物のやりとりで、ドラマチックだったたり、微妙にかみ合った感じがあったりして、読んでいてあきませんでした。また、『この本を読み終わる』というシリーズとして、『海の底』『道の街』もあるのが読んで読むといいでしょう。（順番はどの本からでも大丈夫です）ぜひ読んでみて下さい。」



振り返れば先生(ヤン)がいる

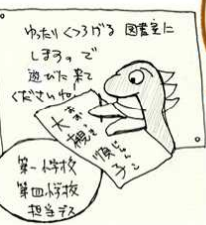
雲野まぶら 著

集英社パルто文庫（二〇〇三年）

ある日突然ママが死に、十六歳のなにを手にオヤに引き取られて、名字が変わってしまった。高校二年生の鈴木真奈子（旧姓まぶら）。

Bukumaru

新しい学校生活がスタート！



どい(08(七)と)。前回自己紹介をしたが、読者のみなさんに読んでほしい。ぜひ読んでほしい。よろしくお願ひいたします。

期待の新人さんです！

